

科目名	物質工学ゼミナールⅠ	英語科目名	SeminarⅠ
開講年度・学期	平成26年度通年	対象学科・専攻・学年	専攻科物質工学コース1年
授業形態	演習	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	学修単位30h+15h
担当教員	原則として特別研究の指導教員	居室（もしくは所属）	電気・物質棟3,4階・物質工学科実験棟1階・専攻科棟4F
電話		E-mail	
授業達成目標との対応			
授業の到達目標		小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE) 基準要件
1. 速報、原著論文、総説、アブストラクト等の区別ができ、その役割を説明できること。		⑤,⑥	E g
2. 専門語彙を300語以上増やすこと。		⑤,⑥	E g
3. 主語、述語、目的語、補語の区別、および品詞の区別がつくこと。		⑤,⑥	E g
4. 英和辞典を自分で引いて、発音記号を基礎して発音ができること。		⑤,⑥	E g
5. 現在 (present)、過去 (past)、未来 (future) の時制 (tense) を区別できること。		⑤,⑥	E g
6. 論理的な日本語訳ができること。		⑤,⑥	E g
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標 1~6: スクールワーク(音読、翻訳、意味の説明) 70%、ホームワーク(予習復習のノートの内容)30%			
評価方法			
関連内容に対する理解度または運用能力が 60%以上の成績で達成とする。			
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間
<p>指導教員のもとで選定した特定分野やテーマに関する外国語文献の音読、翻訳を行い、その内容を説明させる。</p> <p>1. 受講した学生が割り当てられたパラグラフ毎、あるいはセンテンス毎に音読、翻訳を行い、その内容を説明する。</p> <p>2. 学生が行った音読、翻訳の誤りを担当教員が訂正し、内容を分かりやすく講義する。</p> <p>3. 読んだ英文に関連した専門の内容について担当教員と議論する。</p> <p>授業—各自の分担の箇所を音読、翻訳し、意味を説明する。他者の音読、翻訳、説明にも耳を傾け、自分が予習してきた内容と比較する。教官の説明によって自分の誤りを訂正し、疑問点があれば教官に質問する。</p>	<p>予習—少なくとも次回の授業で進むと考えられる範囲を3回以上音読し、分からない単語の意味とその発音記号を単語ノートに記録する。日本語訳をノートに書き、論理的な文章になるまで手直しをする。</p> <p>復習—授業での内容を反復学習し、新しく学習した専門用語を記憶する。</p> <p>授業で進んだ部分の音読を少なくとも 3 回行う。</p>		
自学自習時間合計			15
キーワード	英語、専門用語、音読、読解		
教科書	各担当教員が選択		
参考書	<p>中村喜一郎、青柳忠克著「やさしい化学英語」オーム社（1989）</p> <p>湊宏著「化学英語」東京化学同人（1978）</p> <p>千原秀昭ら「化学英語の活用辞典」化学同人（1987）</p> <p>玉虫伶太著「エッセンシャル化学辞典」東京化学同人（1999）</p>		
カリキュラム中の位置づけ			

前年度までの関連科目	化学英語
現学年の関連科目	応用英語I,II
次年度以降の関連科目	ゼミナールII,III
連絡事項	
理解が困難な場合は、その都度相談に応じる。予習、復習は確実にを行うこと。	
シラバス作成年月日	平成 26 年 3 月 31 日